
原宿殺人事件

nao

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

原宿殺人事件

【Zコード】

Z2956Z

【作者名】

nao

【あらすじ】

椎奈は、姉と原宿で遊んでいた。すると、緊急ニュースが始まつた。そこであらわにされたのは、サタンと名乗るもの、凶悪なメッセージ。しかしそれはほんの、ファーストステージでしかなかつた。

第一話

【サタン降臨】

原宿駅前で、椎奈と姉の百合が一人でナンパ待ちをしていた。

「椎奈あ、あたしオナ力すいちゃつた～。あのお店入らない？」

「いいよお。オナカすいたあ～！行こっ。あ、でも、椎奈、パパにメールいれとかないと。ママに頼まれたんだ。」

「ふうん。パパ、また会議？てか、速くしてよオ。お店入りたい！」

！」

「待つて、百合姉！～もつじょいで・・・よし！送信完了」・・・

♪♪♪♪♪♪

「Hー？何

「ふつ笛？」

突然、ビルについてるでっかいTV画面から、笛の音が聞こえた。椎奈とその姉の、百合はあわてて画面を見る。

周囲もあわてているようだ。すると、画面にいきなりアナウンサーが映った。

そつぎまで料理番組をやっていたはずだが、ニュース番組に変わる。

『アナウンサーの柏木です・・・。急遽ロテレの番組を変更させてもらいました。』迷惑おかげし、まことに申し訳ありません。ただ

いま入ったニュースです。十分前、警察に無名で、こんな手紙が届きました。

警察の皆さん、始めまして。わたしは、サタンです。そう呼んでください。

さて、本題に入ります。わたしは、悪魔の王です。その王が直々に人間界にやってきました。

それも日本にです。

日本の皆さんは、なんて幸運なのでしょう。

そうだ、もつと幸運なのは、ヤグニ「ウジロウ」という青年です。

先ほど、わたし、サタンが殺しました。サタンに殺されるなど、すばらしい事だと思いませんか？

原宿の、「ダーム」というクラブの横の「ミミ箱」に捨てておきました。『みは』ミミ箱に捨てるものですから。

確認して大丈夫ですよ？ 犯では決してありません。わたしは醜い人間と違い、嘘をつく必要が無いので、嘘はつきません。

わたしは、人間界に警告にきたのです。人間『』ときがえらそうとするな。と。

サタンより

また手紙を送ります。

警察が調べたところ、『ミミ箱に本当に青年は捨てられていきました。手足が切断されていたそうです。

以上、柏木がお伝えしました。また情報がありましたら、お伝えします。』

そう言い、料理番組が再開された。一方、見ていた駅前の人々の反応は、おもしろそうだと盛り上がる若者。おびえる大人。色々だった。

椎奈と百合は、畠然としていた。

「ありえないない？百合姉・・・」

「へ、うん。やっぱない？あれって、パパ達どうするんだろう。」

「警察も、びっくりしてんのかね。・・・てか、原宿の『ミミ箱につて・・・ここから近いっしょー。』

「うわー！ 今日家帰ろー！」

「オツケ～」

そう言い、椎奈たちは帰った。

これが凶悪殺人鬼、サタンの降臨だつた。

東京捜査本部

第一話

【東京捜査本部】

「クソッ！－サタンなんてふざけた事をしてゐる奴は誰だ！－」

「原宿殺人事件」東京捜査本部、刑事課係長、池上 良次は、目の前にある机を蹴飛ばし、頭をかかえていた。

「・・・池上さん。そう、荒れないで。まだ調べて間もないじゃありませんか」

「・・・峰神。ずいぶんと落ち着いてられるモノだな。犯人の目星は着いてるんだろ なあつ！？」

「ま、まだですけど・・・。でも、そう怒つたつて、事件は解決しませんよ・・・。まあ、確かに、目撃情報が一件も出てこないなんて、・・・俺もいろいろりますけど。まー、頑張ろうじやないですか。」

「・・・ふんつ。暢気な奴だなあ。おい。・・・缶コーヒーでも買つてくる。ちよいと、席を外すぜ。」

「了解です～」

池上が席を外すと、峰神の隣の席の刑事が声をかけてきた。

「峰神さん、俺、あの係長苦手なんすよ。・・・荒っぽいし。もうちょい、クールに行つた方が良いと想つんすよね。」

「・・・新垣。お前は氣を抜きすぎだ。」

「あはは、そつすか？。俺、これでも一応、眞面目にやつてるんすよ。」

その言葉を聞いて、峰神はため息をつき、口を開いた。

「お前、絶対、宿題とかギリギリになつてやつ始めて、怒らせてたろ。」

「なんで分かつんすかあ！？エスパーつ！？俺、超能力に興味ないですよ。」

すんなりと交わすのか、嫌味だと気づいて無いのか。峰神は呆れ顔で微笑んだ。

「お前なあ、何で刑事になつたんだ？事件を追つため、じゃないのか？」

「え？モテるためすよ？刑事つて、かつこいいですよね。てか、この事件、かつこいいと思いません？」

「はい〜〜？」

「なんか、ドラマとか小説とか漫画みたいじゃないですか！サタン、なんて。世の大人達は、頭の狂った奴、とか、中一病の親父へ、とか言つてゐるけど、俺的には、かつてお兄さんしか思い浮かばないんですよーー！」

「…………

「あ、仕事やべーっすー！じゃあ、現場行つてきますー。あーーしたつー！」

「おひ？・・・・・

そうして、捜査本部の日常は終わる。

何の情報も、掴めぬまま。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2956z/>

原宿殺人事件

2011年12月27日23時46分発行